



# 波千鳥

まちづくり協議会  
飯田公民館  
だより

(発行)  
飯田地区まちづくり協議会  
飯田公民館  
TEL 79-2251

## オオハンゴンソウ駆除作業レポート

○7月8日（土）に飯田地区まちづくり協議会では、特定外来生物のオオハンゴンソウ（大反魂草）の駆除作業を行いました。

オオハンゴンソウは北アメリカ原産の植物で、一見黄色の綺麗な花に見えますが、強い生命力と一度に1000個近い種を撒くことで、周囲一面を覆ってしまい周りにいる植物を押し退けてしまいます。そのため、環境省が特定外来生物（第二次指定種）に指定しており、許可なく栽培・保管・運搬・輸入・譲渡を行うことは禁止されています。

飯田高原においても、この数十年でオオハンゴンソウの生育・その範囲の拡大が確認されており、飯田地区まちづくり協議会では3年前よりこのオオハンゴンソウの駆除活動を行い、今回の駆除作業では38袋、約450Kgのオオハンゴンソウを駆除することができました。参加されました皆様、雨天の中、ありがとうございました。

外来生物、特に特定外来生物は一度その地域に広く繁殖してしまうと、その地域特有の生態系・生物多様性に大きなダメージを与えてしまい、その回復は容易にはできません。今後も飯田地区まちづくり協議会ではオオハンゴンソウをはじめとする特定外来種の駆除活動を行い、地域の自然環境、生物多様性を守り続けていきます。



## 南山田ふれあい交流センター・南山田公民館 落成！！

平成29年6月24日 南山田ふれあい交流センター・南山田公民館の落成式が行われました。

本施設はホール、会議室（2部屋）、和室、児童クラブの他、図書コーナーや展示コーナーを備え特に、今までの南山田民館にはなかった交流スペースは人気の場所となっています。児童クラブの子ども達もここで宿題をするのが流行っています。もちろん、地域の大人がちょっとした談話を楽しむ場所としても活用されています。体育館やグラウンドと併設した総合的な施設として、地域の様々な活動の拠点としていただけるよう、地域の皆様のご利用をお待ちしております。





# 地底に関するエトセトラ

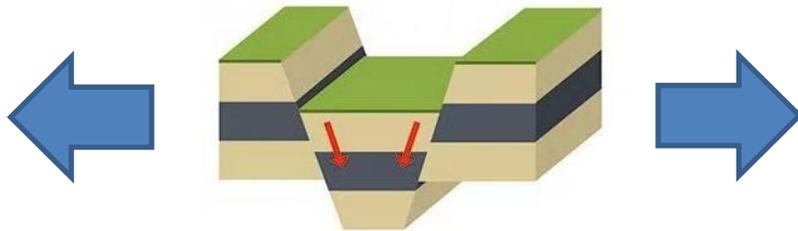
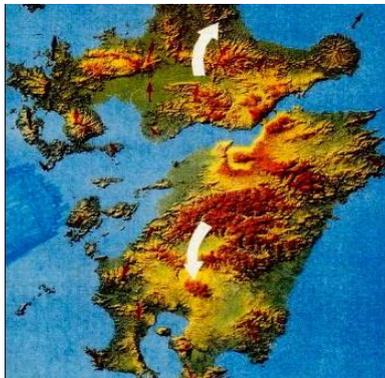
○九州の屋根として知られる飯田高原。その屋根を構成する数々の山々には硫黄山のように現在でも噴煙を上げる山もあります。ですので、この飯田高原が火山によってできたことはなんとなく想像できるかもしれません。ですが、それはいつ、どのようにできたのでしょうか？毎回、飯田に関する古い話のあれやこれを扱うこのミニコラム。今回は時計の針を一気に過去に、それも数万年以上昔に巻き戻し、この飯田の土地がどうやってできたのかについて取り上げていきたいと思ひます。

まず飯田高原の成り立ちを説明する前に、九州の大きな地面の動きについて説明しましょう。実は九州は別府から有明海のラインに沿って南北に引き裂かれるように動いています。そのため、両端から引っ張られた結果、驚くべきことに九重を含めたその線上の地域は全体的に沈みこんでいるのです（別府－有明地溝帯）。実際、調査によれば土台の層（先新第三系）は飯田高原付近で海拔-800～-1000m、場所によっては2000m程度「海」より深くなっているそうです。

ここまで読まれた所で多くの方は、こう思うのではないのでしょうか？そんな馬鹿な。ここは九州の屋根の一角、他より高い場所、海の底ではない、と。

皆さんの疑問のとおり、今私たちは下の図の九州のような姿を見ることはありません。将来的には海の底になる可能性もあるようですが、なにかそうさせないものがあるからこそ私たちは海の底ではなく、スカイツリー（634m）より高い場所に住んでいるのです。話が多少脱線しましたが、その答えは火山にあります。

この辺りの話は興味深いものですが説明が長くなりますし、また影響する火山も沢山ありますので詳細は省略します。掻い摘んで言えば、いくつかの火山によって芝やかた峠付近～朝日台にかけて溶岩が壁のように広がり、噴き出した溶岩や火山灰による火砕流がダムにたまる水のように流れ込み飯田高原が形造られたと言われていひます。これは飯田火砕流と呼ばれるもので大体7万年～8万年頃のことと推定されています。



- ① 分裂する九州(約50万年後の想像図)
- ② 両側より力がかかると上の図のように中央が沈みこみます。このような地形を地溝と呼びます

ここから先はもう少し高い山の部分のお話にしましょう。

眼前に見える九重連山は、概ね30万年前～26万年前ごろから活動が始まり——この辺りも大変複雑になりますので詳細は省略いたしますが——上に述べた飯田高原が作られた7～8万年以降に現在の九重火山を形成する溶岩ドームが次々に形成されました。層序学的にを比較すると中央部の久住山系より東側の大船山系のほうが新しく、最も東側に位置する黒岳の活動は約1700年前と非常に新しい火山です。歴史時代の噴火活動は1662年(寛文2年)、1675年(延宝3年)、1738年(元文3年)に古記録があり、1995年(平成7年)には、皆さんご存知のように硫黄山の噴火活動が観測されました。

このような現代まで続く活発な活動のエネルギーが、最初にご紹介した南北に分かれていく九州全体の動きと関係があるのかについては現在まで多くの研究がなされていますが、依然としてはっきりとしていない部分が多く、今後のより一層の研究が待たれます。ただし、一つだけ間違いないことは、私たちの住むこの大地は、これまでもダイナミックに活動をおこない、それはきっと今後も続いていくであろう生きた大地であるということです。それは一年前の熊本・大分地震や1995年の硫黄山の噴火などで明らかです。

災害は忘れた頃にやってくるといひますが、ここまでお話ししたものは目に見えにくいだけで、地面の下は絶えず今でも動き続けていひます。このことをどうか頭のどこかに置き、日々の防災意識をどうかお持ちいただきますようお願いいたします。



## 【参考資料】

松本征夫 (1983) 「九重火山群の火山地質学的研究」 山口大学理学部地質教室  
 Hiroki Kamata Kozo Uto, Shigeru Uchiyumi (1988) [Geochronology and Evolution of Post-Shishimuta Caldera Activity around the Waitasan Area in the Hoho Volcanic Zone, Kyushu, Japan] Bull.Volcanol.Soc.Japan.ser.2 Vol.33 (1988)No.4,pp.305-320  
 西 健一郎・岩松 暉・横田修一郎 (1991) 「大分県玖珠盆地南東部の地質」 鹿児島大学理学部紀要 No24,P55-71  
 鎌田 浩毅 (平成8年) 「宮原地区の地質」 地域地質研究報告 福岡 (14) 第85号  
 国土交通省国土地理院 「火山土地条件調査報告書(くじゅう連山地区)」 技術資料 D.2-No.51  
 九重町 (平成7年) 「九重町誌」 上巻 第一篇 第一章 p3-29 地形  
 消防防災博物館 日本の火山・世界の火山 該当ページより  
[http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi?ac1=BB37&ac3=2823&Page=hpd2\\_view](http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi?ac1=BB37&ac3=2823&Page=hpd2_view) 平成29年6月29日 閲覧  
 URBAN KUBOTA 別府－島原地溝帯 No39/34  
[https://www.kubota.co.jp/siryou/pr/urban/pdf/39/pdf/39\\_03.pdf](https://www.kubota.co.jp/siryou/pr/urban/pdf/39/pdf/39_03.pdf) 平成29年6月29日 閲覧



# 飯田の伝統野菜を食べてみよう! 第3回 無田とうきび

ミニコラム

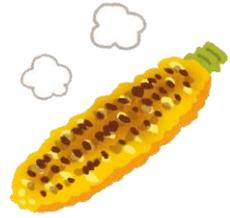
飯田高原の伝統野菜を紹介するこのコーナー。三回目は無田とうきびを紹介していきます。

日本にトウモロコシが入ってきたのはいくつかのルートがあるようですが、天正年間(1591年頃)ポルトガル人を通じて長崎から伝えられたといわれています。その後、阿蘇山麓や四国の山中、富士山麓などの地域に広がっていったとされており、ひょっとしたら無田とうきびのルーツもこの辺りにあるのかもしれませんが。今回紹介する無田とうきびはデントコーン種の一つであり、若く身が柔らかいうちは人間が食べ、完熟して硬くなると牛のエサとしたり、乾燥させて保存食にしていました。

生のまま食べると甘味はありませんが、焼いて食べると香ばしくモチモチとした食感があります。九重では昔から乾燥させた実を一晩水に浸して柔らかくしたものを米と炊いてとうきび飯にしたり粉にして餅にまぜ、とうきび餅にして食べたりしました。また、乾燥したとうきびの皮は草履の鼻緒に使ったり、芯を風呂の薪として利用したりしてきましたそうです。



写真提供 ふるさと自然学校



## 各種お知らせ

# 町100%出資株式会社説明会のお知らせ



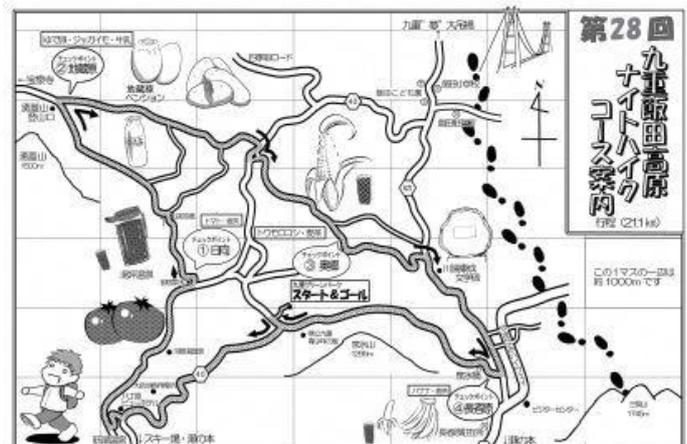
九重町では平成29年7月28日(金)に飯田公民館集会室にて町100%出資の株式会社の説明会を19:30より行います。

町100%出資株式会社は、まち・ひと・しごと総合戦略の中に定めた施策の一つで、雇用創出や行政のスリム化、財政運営の効率化などを目的としています。今回の機会に、この株式会社について皆さんで意見を交換してみませんか?

## ナイトハイクの開催について

8月5日(土) 本年も第28回飯田高原ナイトハイクが開催されます。

当日は多くの方々の通行が予想され、コース沿線の皆様にはご迷惑をおかけするかとおもいますが、ご理解・ご協力の程、なにとぞよろしくお願いいたします。





# 飯田地区の各種 お祭りのご案内

○本年度も飯田地区におきまして各種イベントが実施されます。

7月22・23日に「九重“夢”大吊橋納涼フェスタ」が大吊り橋で、同23日18時より第3回「中部地区おたのしみ会」が飯田地区体育館（旧飯田中学校体育館）にて、8月5日には第28回「九重飯田高原ナイトハイク」、8月14日17時半より第34回東部ふるさと祭りが旧朝日小学校グラウンドにて行われます。

各イベント共、様々な催しを企画しています。皆様のご参加の程、お待ちしております。

7月23日(日)スタート!

九重“夢”大吊橋

Middle Area Fun Festival

# 祭

中部おたのしみ会

第3回

場所 飯田地区体育館 (旧飯田中学校体育館)

2017 SUMMER FEST IN KOKONOE YUME OTSURIHASHI

夏休みだよ! 九重“夢”大吊橋

## 納涼フェスタ

2017.7.22 Sat 10:00-18:00

23 Sun 10:00-18:00

ステージイベント  
バザーコーナー  
バーガー大食い大会  
流しソーメン

会場/九重“夢”大吊橋 中村エリア駐車場内

東部ふるさとまつり

日時:平成28年8月14日 17:00~21:30  
場所:東部集会所広場(千町無田 旧朝日小グラウンド)

催し

17:00 ふれあいじゃんけん大会  
17時受付  
17時半開始  
参加者全員に景品あり

18:00 出演者  
・ロダキャンポーンズ(九重町)  
・オープニングセレモニー  
・よさこいソーラン(飯田小児童)  
・庄内子どもかぐら(由布市)

20:30 盆おどり  
21:00 花火大会

お楽しみコーナー

17:00 バザー  
焼き鳥、フランクフルト  
生ビール、ジュース  
他

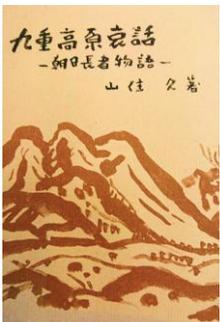
17:00 コーナー  
・くじ引き(景品有)  
・ヨーヨー釣り  
・福菓子  
・かき氷 他

主催:東部ふるさとまつり実行委員会・飯田東部地区長会  
※うちおは当日に交付で配布します。  
※東部ふるさと祭りについては昨年の資料を基に掲載しております。

## 今月のおすすめ! 公民館図書 (vol.11)

この公民館だよりの片隅でひっそりと続けてきたこのコーナー。今回はお問い合わせの多い山住久 著「九重高原哀話」をご紹介します。

この本は郷土で語り継がれている「朝日長者」伝説を四十年以上取材して書かれたもので、作者から郷土へ送られた朝日長者の栄光とその没落・悲話を小説として描いた一作です。伝説を面白く読めるこの一冊、一度読んでみませんか?



タイトル 九重高原哀話

作者 山住久

発行 九重刊行会

初版 昭和41年

貸出 不可

## 今月のスケジュール



- 20日 脳いきいき広場 (飯田公民館)
- 22・23日 九重“夢”大吊橋 納涼フェスタ (夢大吊り橋 中村エリア)
- 23日 中部地区おたのしみ会 (飯田地区体育館)
- 29日 くじゅうフェス (長者原園地)



- 1日~3日 ふるさと探検クラブ
- 5日 九重飯田高原ナイトハイク
- 14日 東部ふるさと祭り (旧朝日小学校)
- 15日 九重成人式 (文化センター)
- 17日 脳いきいき広場 (飯田公民館)
- 19日 こども料理教室 (飯田公民館)

